

Title	経済学会シンポジウム：経済学の新展開
Sub Title	Keio Economic Society's symposium : new developments in economics
Author	河井, 啓希(Kawai, Hiroki)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2020
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.112, No.4 (2020. 1) ,p.365 (1)- 367 (3)
JaLC DOI	10.14991/001.20200101-0001
Abstract	
Notes	経済学会シンポジウム：経済学の新展開
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20200101-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

経済学会シンポジウム

——経済学の新展開——

河井啓希*

経済学会シンポジウムは、慶應義塾経済学会員の親睦を目的として 1965 年から実施され、本年度 18 回目となる。こうした研究交流を継続しておこなうことは実は困難である。というのも、本学経済学部教員の専門分野は多岐にわたっており、研究へのアプローチの方法も大きく異なっているからである。さらに普段は学事や個々の研究活動に忙殺されているため、異なる分野の教員間で、それぞれの研究に触れる機会などほとんどないのである。

このような状況下で、経済学会シンポジウムは、多様性に富んだ経済学部教員同士が、他分野の様々な最新の研究成果に触れることで、大きなシナジー効果を生むことを期待して、定期的に行われているのである。

本年度は、2019 年 11 月 19 日の三田祭準備日に新任教員の方々に報告をお願いして、慶應義塾大学三田キャンパス北館 1 階の会議室 2 において開催された。

経済学会は、経済学部教員の研究について学部学生諸君に向けて紹介するために、このシンポジウムで報告をおこなった方々の研究に関する論文を寄稿していただいた。

今回のシンポジウムでは、栗野盛光教授、片山翔太准教授、井深陽子教授、石井太教授による 4 つの報告があった。

シンポジウム第 1 報告の栗野盛光教授による“*How to Avoid Black Markets for Appointments with Online Booking Systems*”では、栗野教授が共同研究を進めている最新のメカニズムデザインの研究の一つで、公的機関での運転免許証、ビザ面接、パスポート更新などのオンライン予約システムで生じる不正（ダブ屋による闇市場の存在）をなくすための新しい予約システムの提案に関する

* 慶應義塾大学経済学部

る研究が紹介された。栗野教授は、新しいシステムが、理論的に優位性を持つことを示したうえで、実験を通じて新システムが望ましいことを明らかにした。日本でも、コンサートチケットの転売問題など類似する問題を抱えており、今後も精力的な応用研究が期待される。

続く第2報告の片山翔太准教授による「スパースモデリングによる統計解析——ロバスト推測・グルーピング・グラフィカルモデル——」では、DNA解析、ファイナンス、地理情報などの高次元データに対する解析方法として着目されているスパースモデリング (Sparse modeling) の方法論の紹介とその応用事例の紹介がおこなわれた。片山准教授は、従来の計量経済学で利用されていた Ridge 回帰法と Sparse 正規化法を対比しながら、わかりやすい解説をおこなった後に、外れ値問題に対処するロバスト推定やグルーピングへの応用の事例が紹介された。今後、この方法論が広く活用されることを予想させる興味深い報告であった。

次の第3報告の井深陽子教授による“Interdependency in vaccination policies among Japanese municipalities”では、井深教授がこれまで精力的におこなってきた感染症対策のワクチン接種実施の意思決定において、地方自治体の相互依存関係 (模倣あるいはタダ乗り) が存在するか否かの問題に対して、空間計量経済モデルを用いた最新の研究が紹介された。

模倣によるプラスの効果とタダ乗りによるマイナスの効果の識別は容易ではないが、井深教授の提示した識別のためのアイデアは有用で、今後は、乳幼児医療費助成制度、介護保険事業などでも応用可能な重要な研究であるといえよう。

最後の第4報告の石井太教授による「将来死亡率推計のための人口学的モデルについて」では、我が国の人口問題と人口予測の方法について詳細なデータを示しながら、現行の予測モデルの方法論とその改善について丁寧な解説がおこなわれた。人口予測においてキーとなる出生率、死亡率、移動率などの変数と経済要因、社会要因、文化要因、医療技術要員との関係をどう把握するべきかなど多くの論点が議論されたため、1時間という報告時間ではとても足りないほど議論が白熱した。

以上、4つの報告が半日をかけておこなわれたが、報告者を含む15名の参加者が個々の専門分野にかかわらず活発な議論がかわされ、研究の重要性を確認するとともに、自身の研究を進めるうえで大いに刺激を受けたことから、テーマにふさわしいシンポジウムになったといえよう。

本号では、4報告のうち2報告についてわかりやすく解説された論文が掲載されているので、学生の皆さんも是非論文に目を通して、最新の研究に触れていただきたい。

経済学会は今後も活発な学会活動を企画していきたいが、こうしたシンポジウムが経済学会会員間さらには学生の皆さんに対する知的波及効果を生む一助となれば幸いである。

テーマ：新しい経済学

プログラム：

2019年11月19日（火）午後1：00～午後5：00

13：00～14：00

栗野盛光 “How to Avoid Black Markets for Appointments with Online Booking Systems”

14：00～15：00

片山翔太 「スパースモデリングによる統計解析——ロバスト推測・グループینگ・グラフィカルモデル——」

15：00～16：00

井深陽子 “Interdependency in vaccination policies among Japanese municipalities”

16：00～17：00

石井 太 「将来死亡率推計のための人口学的モデルについて」

会場：慶應義塾大学三田キャンパス・北館1階会議室2

参加者（50音順、敬称略）

池田幸弘（経済学部教授）

櫻川昌哉（経済学部教授）

石井 太（経済学部教授）

白塚重典（経済学部教授）

伊藤幹夫（経済学部教授）

玉田康成（経済学部准教授）

井深陽子（経済学部教授）

津曲正俊（経済学部准教授）

片山翔太（経済学部准教授）

土居丈朗（経済学部教授）

河井啓希（経済学部教授）

藤原グレーヴァ香子（経済学部教授）

川俣雅弘（経済学部教授）

宮内 環（経済学部准教授）

栗野盛光（経済学部教授）

15人